

各位

上場会社名 ファースト住建株式会社
 代表者 代表取締役社長 中島 雄司
 (コード番号 8917)
 問合せ先責任者 管理部部長代理 江川 博夫
 (TEL 06-4868-5388)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年12月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年10月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年11月1日～平成22年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,000	1,400	1,360	820	48.52
今回発表予想(B)	17,450	1,850	1,800	1,050	62.13
増減額(B-A)	△550	450	440	230	
増減率(%)	△3.1	32.1	32.4	28.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年10月期第2四半期)	17,601	243	210	124	7.34

修正の理由

一昨年に生じた金融危機と世界的な景気後退により、不動産相場が大きく下落する傾向となっておりますが、当社ではこうした経済環境に対応するために、金融危機以降は、不動産相場が下落したことによって不採算となった滞留在庫の早期販売を進める一方で、新たな分譲用地仕入の際には緻密な市場調査を行い、適正な収益が確保できる案件を厳選して仕入を行ってまいりました。その結果、前事業年度末には販売用不動産在庫が大幅に縮小することとなりましたが、不採算となっていた在庫が一掃されたことが主な要因となり収益性の面では改善の傾向が表れる状況となっております。

当第2四半期累計期間におきましては、金融危機以前に比べて販売価格が低い水準となったことや住宅取得を促進する諸政策の影響等により、足許の住宅需要は下げ止まりの傾向が広がり堅調に推移していることを受けて、新規の分譲用地仕入を強化し、主力の戸建分譲事業における販売棟数拡大に努めてまいりましたが、これらの新規に仕入れた案件が当第2四半期累計期間の売上として計上されるまでには至らず、戸建分譲事業の販売棟数は前年同期の715棟に対し当第2四半期累計期間には632棟と減少することとなりました。また、マンション分譲等事業においては、前事業年度に仕入れた新築分譲マンション1棟(全58戸)の販売が好調に進み、マンション分譲等事業における販売戸数は、前年同期の9戸に対し当第2四半期累計期間には60戸(うち新築分譲マンション55戸)と増加いたしました。売上高は当初の見通しを下回ることとなりました。一方、営業利益、経常利益及び四半期純利益につきましては、戸建分譲事業においては販売価格が底堅く推移していることにより、これまで分譲用地を厳選して仕入れることによって行ってきた仕入価格適正化に向けた取り組みや建築コストの低減に向けた取り組みの成果が収益性の改善として表れており、また新築分譲マンションの販売に伴う利益も当初の計画を上回って獲得することができたことにより、営業利益、経常利益及び四半期純利益はそれぞれ当初の見通しを上回ることとなりました。

以上により、平成22年10月期第2四半期累計期間の業績予想につきましては、売上高17,450百万円、営業利益1,850百万円、経常利益1,800百万円、四半期純利益1,050百万円となる見込みであります。

なお、通期の業績見通しにつきましては、平成21年12月14日の公表数値からの変更はありません。

※ 上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

以上